

令和7年度第4回シン・十文字拠点基本構想策定委員会 議事要旨

日時	令和7年10月31日（金）18:00～19:40
場所	三重地区交流センター1階 会議室
出席者	白木 智昭 委員長、高橋 純一 副委員長、高橋 淳 委員、佐藤 健 委員、嵯峨 陽子 委員、井上 博子 委員、佐々木 義和 委員、佐藤 傳彦 委員、遠藤 宗一郎 委員
欠席者	樋渡 直 委員、高橋 賢史 委員、岩根 えり子 委員、千田 慎之介 委員、佐々木 百合子 委員
事務局	総務企画部長 小玉 幸平 総務企画部地域創造戦略室 室長 宮本 敦、室長代理 高橋 知巳 副主幹 吉野 広平、主査 酒井 あずさ まちづくり推進部 次長兼十文字地域局長 畠山 容子 まちづくり推進部十文字地域課 課長 小國 晶
議事	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 案件 (1) 基本構想（素案）について・・・資料1 (2) 今後のスケジュールについて・・・資料2 4. その他 5. 閉会
資料	【資料1】基本構想（素案）について 【資料2】今後のスケジュールについて

【議事要旨】

次 第	発言者	発言概要
1. 開会	司会	<p>ただいまから第4回シン・十文字拠点基本構想策定委員会を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます地域創造戦略室の宮本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日、所用により高橋 賢史 委員、樋渡 直 委員、岩根 えり子 委員より欠席の連絡をいただいております。</p> <p>はじめに、臼木委員長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
2. 委員長挨拶	委員長	<p>ついこの間まで暑いと言っておりましたが、涼しいを超えて寒くなってきて、そろそろ冬支度かなという感じです。皆さんと一緒に議論をしたり、先進地を見に行ったりしながら議論を重ねてまいりましたけれども、早いもので第4回ということになりました。今回は皆さんのご議論を踏まえまして、基本構想の素案を事務局のほうで用意いただきましたので、今日はそれを中心に皆さんと更なる議論を重ねてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
	司会	<p>臼木委員長、ありがとうございます。それでは3. 案件に移りたいと思います。委員会の規約によりまして、臼木委員長に議事進行をお願いいたします。</p>
3. 案件	委員長	<p>それでは、案件に入ってまいりたいと思います。次第にありますとおり、資料1の基本構想（素案）について、事務局から説明をお願いしたいと思います。</p>
	事務局	<p>～事務局より説明～【資料1】</p>
	委員長	<p>ありがとうございます。資料の中にもありましたが、6月中旬から半年に渡って議論してきた内容が網羅されており、上手く整理されているのではないかと思います。1章から3章までは基本的には現状等になります。それを整理していただいて課題があるということ踏まえて、私たちが議論してきた主なポイントとしては、4章と5章になります。6章や7章は次年度以降に向けた宿題という部分もあるのかなと思います。ただ、7章の検討事項や来年度に向けた課題については、皆さんとの議論の中でご指摘いただいた内容です。具体的な計画については、基本計画や基本設計の段階でこの基本構想を引き継いで議論していくということになります。この委員会はシン・十文字拠点整備の構想を議論するということで、若い人たちに使ってもらえるような施設、エリア整備の考え方・コンセプトを示し</p>

	<p>ていくことがこの委員会のミッションになります。そのことを考慮していただいて、今まで議論してきたことや自分の意見が入っていないとか、こうまとめられているがどうなっているのだという質問でも構いません。全体でもいいですし、特にコンセプトや導入機能について、これが足りない、これは言い過ぎだというようなことも含めて質問や意見がありましたら承りたいと思います。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>基本構想ですので、風呂敷を広げて色々なものをここに載せなければならないということではないと思いますけれども、この基本構想（素案）は案が取れば、世の中に出ていくのですよね。非常に小さいことなのですが、P26①策定委員会における意見のところに“農業やマンガ文化、食文化など、他に無い学校があり”とあるが、“他にない学校”とは統合校のことであり、これらのことが学べるものがあると良いという意見だと思うので、ここにはしっかり“統合校”と分かりやすい表現に修正した方が良いのではないかと思います。</p>
委員長	<p>今、事務局のほうでコメントできる範囲で何かありますか。せっかくここに挙げるのであれば、ぼやけた感じではなく具体的に新しく整備される統合校のイメージが分かるように記載をしたほうが良いのではないかというご意見です。教育関係は教育委員会のほうでコンセプトを練っているとは思いますが、盛り込めそうな余地はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>あくまでも委員の皆様からの意見という形で入れておりますが、どういった意図で意見を述べられているということをきちんと記載する方が良いかと思います。こちらは文章で意見を提出していただいたものをそのまま記載しています。ただ、以前の策定委員会で増田高校に3つの高校が統合されるという話の中で、増田高校は農業学科があり、その部分での話かとも思いますので、そういった趣旨を踏まえたような表現に修正できないか検討させていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>もう1回、最終案について議論する局面がありますので、一旦、ご指摘を踏まえて事務局のほうで修正いただくということでいかがでしょうか。</p> <p>こういったことも含めて、他にご意見ございますでしょうか。</p>
委員	<p>少し細かいことですが、P6の立地適正化計画の居住誘導区域・都市機能誘導区域の図面について、十文字駅の位置が若干</p>

	ずれているような気がします。
委員長	これは公表されている図面ですよ。
委員	駅舎からホームが下に延びているから、ずれているのではないのでしょうか。
事務局	立地適正化計画の図面であり、すでに公表されているため、都市計画課に確認いたします。
委員	基本構想（素案）が出来て頭の整理がついてきました。山形に視察に行って、エリアごとに色々見ることができたのがとても良かったです。そういう構想に基づいて、これから進んでいくのだろうと思うところで、1つ気になることがあります。今の十文字の道の駅はそれなりに建築年数が経っていますが、道の駅と新しい施設との関係性がまだボヤっとしているのではないかなと思います。空き地利用を考えているのですけれども、どうしても道の駅もこのエリアに含んだ構想になっていかざるを得ないかなと思います。十文字にこういうのができるのだとワクワクしているのですけれども、今の道の駅の駐車スペースもかなり狭いと思います。十文字地区交流センターや JA 十文字との連携や駐車スペースの共同利用も基本構想の中に入っていないかと思いました。A と D の道路を跨いで移動する考え方について、立体にするのかどうかの問題もあろうかと思っています。十文字を副拠点という立ち位置で考える場合、中心拠点である横手市との関係性を考えているかと思いますが、アクセス性のつながりを整備する必要があるのではないかな。この規模感で集客する場合、もう少し横手市とのアクセス性が無いともったいないと思います。
委員長	ゾーニングの話の要素になると思うので、今こうするというのは話しにくいと思います。ただ、懸念としては道の駅十文字との連携を考える上で駐車スペースや安全性を含めて ABC 全体の行き来をどうするかといった話も必要になってくるのかなと思います。具体的な計画は基本計画やその次のステップになると思いますが、新拠点の検討の中で道の駅十文字に触れてもいいのでしょうか。
事務局	道の駅十文字との関係性はこのエリアの基本構想・基本計画を考える上では切っても切れない要素で必ず入ってくる要素です。今回、基本構想を定めるにあたって、エリアについてはこういう形でお示ししていますが、道の駅十文字を含むエリア設

	<p>定にすると道の駅も改修すると認識される可能性があります。実際に進めていく中で、建物の改修までいかなくとも駐車場不足に関する課題は解消しなければいけないと認識しております。P36 今後の課題としてお示しし、基本構想では、道の駅も含めて考えていくというところに留めて、具体的な内容は基本計画の中で考えていきたいと思っています。道路の問題については、まだ基本構想の段階であるため、具体的にどうするかということは記載しておりませんが、交通量も多く冠水もありますので、立体的なものが良いのかどうかなど、ゾーニングの仕方によっても変わると思います。道路の具体的な課題については、大きい括りで書かせていただいています。具体的なところは、委員の皆様からのご意見として、来年度に申し送りした上で基本計画の中で詳細を検討していきたいと思っています。</p>
委員長	<p>なかなか基本構想を作るという建前上は守備範囲を超えるものの、連携や連動を抜きには語れませんので、最後の頁にもありましたけれども、実際にハード整備をする際に、どこに何を配置する等、道路を含め議論をせざるを得ない。ただ、うやむやにするのではなくて、次の基本計画で引き継いでいただいて、施設の機能、配置、駐車場、動線をどうするか、具体的にご議論いただく形になります。</p>
委員	<p>これまでの話で頭の中で勝手にこういう感じになるのかなというイメージが出来上がってしまって、先々のことまで心配になってしまいました。</p>
委員	<p>P36 今後の検討課題で道の駅十文字が防災道の駅として防災拠点に位置付けられています。災害というと積雪、地震、水害等がありますが、道路や水路といったインフラ整備の項目で「冠水して通行止めとなって」という表現があります。防災拠点なので、水害等で道路が冠水するというのはマイナスになると思います。ハザードマップではここは浸水区域ではないが、たまたま排水機能に不具合があって流れていかず浸水してしまったというのであれば、やはり早期にそこだけ改善していくということで計画がスタートしないといけない。広域防災拠点に位置付けられているのであれば、構想を進めていくにあたり、井の一番に、改善していくべきではないかと思います。</p>
委員長	<p>防災拠点として位置付けるのであればという話だと思いますが、次の基本計画の段階でこういったことも盛り込んでいく考</p>

	えということで認識していいかお答えいただけますでしょうか。
事務局	エリアの機能として防災機能を入れさせていただいている以上は、課題ですし解消していくべきであると考えています。やはり防災道の駅に認定されたということで、市議会でも冠水の解消についてご質問をいただいています。このエリアだけでなく、十文字中心部やそれ以外の場所でも冠水したりしています。エリア内だけでなく、水路全体の検討をしないと解消できないのではないかということで、関係部署で冠水対策を検討しているところです。基本計画にどこまで載せていくかは今後の課題となりますが、市としてはエリアを整備するにあたっては、課題解消に向けて検討してまいります。
委員長	他にいかがでしょうか。確認といったことでも結構です。
委員	防災道の駅の広域防災拠点の機能は基本的に何になるか教えていただけますでしょうか。
事務局	国交省の基準で設定されたもので、広域防災拠点の役割としては、大規模災害が発生した際に避難活動をする自衛隊や警察の拠点となること、物資の基地、復旧や復興活動を行っていく上での拠点、避難所といった機能をもつものとして位置付けられています。そういった拠点に選定されるにあたって、防災計画策定の有無や建物の耐震化、電力や水が確保できるか、駐車場 2,500 m ² 以上等の要件を満たしているかが基準となっています。これを満たしているということで今年の5月に道の駅十文字が防災道の駅に選定されています。選定されて終わりではなくて、国の重点支援メニューを受けられるようになるので、防災拠点の役割を果たすために防災トイレを増やす、貯水施設を置くなどを行っていくことができます。現時点で市のほうで具体的にこうしていくというものはありませんが、いずれはエリアの防災機能を作っていくにあたっては、道の駅と産業以外に防災も含めてどういった連携ができるかということを考えていかなければいけないと思っています。
委員長	秋田県内でもこの防災道の駅が少しずつ増えて来ていて、道の駅ふたついがリニューアルの際に選定を受けているのですけれども、米代川のすぐそばにあるのもし増水したら大丈夫なのかと思っていました。今、お話があったとおり、能登半島の地震や最近起こっている自然災害では、自衛隊、医療チーム、

	<p>ボランティアや地域の人たちとつなぐ場所として道の駅はすごく使いやすいという経験から広まっているらしいです。駐車場にテントを広げて、自衛隊、医療チーム、ボランティアを配置して事態が落ち着くまでそこを拠点に活動しています。不足する物資を集めて、安心・安全が確保される拠点として使っているということで、道の駅のPRにもなる。徐々に道の駅にこういう機能を持たせていこうという地域が増えて来ているのが事実。幸い、十文字の場合は選定されているので不足する機能を足していけばいいのはすごくやりやすいと思っています。特に選定された要素の中でインターが近いことも大事だと思います。十文字で災害が起こることを想定しているわけではなく、近隣で何か起こったときに、ここを拠点として活動できるということは、しっかりした基盤があるというPRにもなります。だからこそ、新しい整備計画の中では、道の駅との連携はぜひやっていただきたいと私も思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
副委員長	<p>今の段階では、構想としては大変良くて申し分ないと思っています。</p>
委員	<p>P28 “地域のレジリエンス” の意味が難しいので、日本語にするか、注釈を付けるのはどうでしょうか。</p> <p>P36 既存施設の利活用について、いずれ解体するにしても、基本計画の中で活用できるのか検討することが大事だと思いますので、この項目はすごく良かったと思っています。あとは我々が話し合ってきたことがほぼ反映されて、まとめられていると思います。</p>
委員長	<p>カタカナについては、考慮していただいて最終版に反映させていただければと思います。</p> <p>結構分厚い資料になりますので、一旦持ち帰って気づいたことがありましたら事務局にメール等にてお寄せください。</p> <p>私のほうからは、P26 中高生によるワークショップで出ていた “遊べる場所が欲しい” とか “十文字の長所を生かしながらエリア整備をして欲しい” というような意見について、P27, 28 にはコンセプトや将来像の中にはそういう要素は入っていて、子育て支援としての施設はそれでいいと思うのですけれども、中高生といった若い世代に特化した施設もいいのではないかと思います。例えば、高校が終わって電車の時間や保護者の送</p>

	<p>迎を待つ間に勉強するなど滞在できる図書館のような場所。横手市に新しくできた Ao-na（あおーな）は高校生等が多く集まっていて、評判の良い施設だと聞いています。図書館にみんなで行くということが少ない世代ですが、施設の作り方1つで若い人たちが喜んで集まってくる。横手市はそういう施設を作った経験があるので、他の地域から人を呼びこんでお金を落としてもらおうということも非常に大切なことなのですけれども、十文字エリアに合うような形で若い人たちが滞留できる施設、地域の人にとっても価値があると思える施設があると良いと思います。せっかく中高生たちがワークショップでこういうのが欲しいと知恵を出してくれたので、次の基本計画やエリア全体のゾーニング等を考えていく中で検討していただければと思います。</p>
委員	<p>P29 防災機能のところで個人的な意見なのですが、防災センターがあるといいなと思います。有事のときの防災機能だけではなく、日頃から防災を意識し、年間を通して防災体験ができるような施設になると良いと思います。備蓄倉庫のあたりに追記いただけるとありがたいです。</p>
委員	<p>湯沢高校に通っている子が十文字に勉強するスペースがないから、電車で Ao-na（あおーな）に行って勉強していると聞きました。他にも、十文字地域局の自動販売機の前で勉強している話も聞きました。現状では、高校生等が勉強するスペースが十文字にはありません。前回の策定委員会終了後に、十文字の道の駅を高校生が勉強できるスペースにして、道の駅は新しくこのエリア内に作るのもいいのではないかと話していました。建物の前に駐車場もあるし、コンビニもあって非常にいいのではないかと思います。</p> <p>防犯対策に関することをどこかに盛り込んでもらいたいです。人が集まる施設ができると犯罪は増えるので、地域住民にも配慮した防犯対策があれば安心して住むことができるのではないかと感じました。</p>
委員長	<p>結果として人が集まる場所を作ると色々なリスクが増えるのは事実なので、今後の検討課題の項目でもいいですし、防犯に関する懸念事項をどこかに入れ込んでいただければと思います。</p>
事務局	<p>日頃から防災意識を高められるような体験ができるよう、実</p>

	<p>際に煙が出て避難訓練ができる施設を整備している自治体もあります。今回は具体的に記載しておりませんが、防災機能にはそういう例もあるという形で盛り込むことは可能かと思えます。防災機能にはどういった機能が必要か検討していく中で、そういったご意見があったということも含めて検討を進めたいと思えます。</p> <p>高校生の過ごす場所が十文字地域にはないということについては、市長からも勉強したり友だちとしゃべって過ごす場所がないので欲しいだろうというお話しがありました。それが学習機能の中の図書スペースなのか、交流機能の中のカフェなのか。Ao-na（あおーな）についての意見は中高生のワークショップでも出ているため、市としても意識する必要があるという認識を持っています。</p> <p>防犯の部分について、公共施設の整備にあたって防犯カメラや警備員の配置等は市としても重視しています。基本構想には安全面を検討していくという形で盛り込めるか検討しますが、基本計画では具体的に防犯機能について盛り込んでいくように検討していきます。</p>
副委員長	<p>確かに十文字地域局の自動販売機の前で勉強している高校生は私も何回か見かけたことがあります。十文字にはせっかく図書館があるのに、あまり利用されていないように感じますがいかがでしょうか。</p>
委員長	<p>秋田市に中央図書館明德館という勉強スペースが多くある図書館があり、その向かいに昔の県民会館をリニューアルしたあきた芸術劇場ミルハスがありますが、ミルハスにも若い高校生が集まって勉強しています。ミルハスは勝手に出入りができ、エントランスやロビーは自由に使って良いとなっており、高校生たちは近くに図書館があるにも関わらず、集まって来ています。なぜかという、図書館はせっかく友だちと行っているのに、おしゃべりや飲食ができない。ところがミルハスだとおしゃべりしても誰にも咎められることがないので、勉強したい人は図書館、おしゃべりしたい人はミルハスというように、それぞれが住み分けしているようです。それは、図書館が悪いわけではなくて、やはり若い人たちにはワイワイと集まることができるスペースが必要になると思うし、図書館とはまた機能を分けていかないとなかなか集まらないのではないかと思います。</p>

		た。
	事務局	十文字図書館について、中高生にも十分利用いただいていると思っています。高校生ですと、土日祝、受験勉強やテスト勉強での利用となっています。Ao-na（あおーな）やY2 ぷらざと異なって、施設の閉館時間が早いため、平日の放課後の時間つぶしなどにはならないと思っています。わざわざ部屋を借りるということではなく、フリーなスペースで勉強ができるということが非常に重要だと感じています。
	委員長	先程申し上げたとおり、限られた時間の中で多くの資料をご確認いただいているため、十分に話せなかったことや気づいた点等ありましたら、事務局にメールや電話でお寄せいただきたいと思えます。 案件（2）今後のスケジュールについて、事務局よりお願いいたします。
	事務局	～事務局より説明～【資料2】
	委員長	今後のスケジュールについて、ご質問、ご意見、ご確認等ありますでしょうか。 パブリックコメントをした場合、色々なご意見が出てきますので、今の素案をいくつか修正することになります。その後、1月30日（金）に第5回策定委員会で最終案が提示される形になります。
4. その他	司会	委員長、ありがとうございます。事務局より諸連絡がございます。
	事務局	今回もご意見をいただき、ありがとうございます。12月にはパブリックコメントを実施いたします。 また、委員長からもお話がありましたけれども、基本構想（素案）について、ご意見やご質問等ありましたら、メールや電話でご連絡いただければと思いますので、併せてよろしく願いいたします。
	司会	事務局からは以上となりますが、皆様から何かご連絡等ございますでしょうか。
5. 閉会	司会	以上をもちまして、第4回策定委員会を閉会いたします。皆様、大変ありがとうございました。